

保健室

保育研究シート

2025年2月7日(金)

養護教諭 渡邊 満美

1. 子どもたちの姿

保健室と近い4歳児が多く過ごしている。いつも、教師がいることで安心して過ごせる場になっている子ども、大人に手伝ってもらって製作をしたい子ども、友達と一緒に過ごせる場所として選んで来る子どもなどがある。3歳児は「〇〇ちゃんがけがした」と保健室に駆け込んできたり、「泣いてるから部屋に来て」と呼びにきたりする。そういう子どもたちの姿から生活の中に友だちを感じていることや、保健室も位置付いたことを感じる。5歳児は、自分の必要な時に保健室で過ごすようになっていく。友達と少し離れて過ごす、一人集中してつくる等、1日の生活を自分で作りだしている。

2. 子どもへの願い (かかわりの視点から)

異年齢の子どもたちが一緒に過ごす保健室は、どの学年の子どもにも過ごしやすい空間にしたい。

*自分とのかかわり

- ・けがや具合の悪い時は、いつもと違うからだの変化を感じ、様々な形で表現するようになってほしい。
- ・自分らしく過ごすことを気持ちよく感じ、過ごしてほしい。

*人とのかかわり

- ・異学年との少し距離のある関係の中だからこそ、相手に思いがあることを感じられ、受けとめられることもある。そのような関係のなかで、自分らしく関わってほしい。

*もの・こととのかかわり

- ・クラスとは違う場所を意識して、みんなが気持ちよくいられるように過ごしてほしい。異学年がいること、様々な気持ちで過ごしているひとがいること等、教師が相手を感じられるような声をかけて、過ごし方を考えるきっかけにしたい。

<保健室>

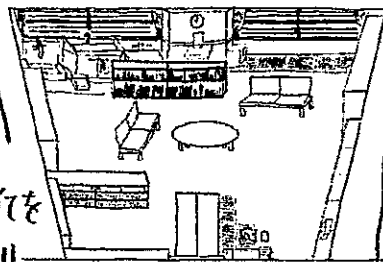
暖かい部屋、静かな部屋、常に大人がいる部屋を
選んで過ごす子どもたちがいる。
担任と連携を取りながら、
子ども同士の関わりを促し、
遊びがっながっていくように関わる。

本に関連して

本をじっくり読みたい、
遊びに関係する本を探す、
遊びが少し途切れて本を読む等
本に親しい場所であり、
活用する場所でもある。

手当ての場で

けがの手当てをじっくり見て
いたり、自分でやってみたく
なっていたりする。けがの手当てを
見て、相手に気持ちを重ねたり、
誰かに優しくして自信をもったりする瞬間がある。
気持ちを合わせやすい場でもある。



ものづくり

落ち着いた場でつくりたい子どもが
いることもある。異学年が過ごす場
であることから刺激をもらう自信が
もてる場でもある。
担任と連携し、それぞれのいま
必要な援助と声かけを考えた
関わる

保健室は、けがや具合の悪い時に来るのはもちろんのこと、絵本も置いてあり、図書室のような機能を兼ねている。保健室では、子どもたちがクラスの枠を越えて出会う中で過ごしている。養護教諭は、けがなどへの応急処置の対応をしながら、保健室で過ごす子どもたちと関わっている。子どもたちが保健室で過ごす理由は「痛いから、もう少し休もう」「絵本を見たい」「今は静かな場所にいたい」「誰かに気持ちを受けとめてほしい」など様々である。